

巻頭言

やねから雨がおちてきて／大きな雨の音がする／ボトボトボー ジョジョージョジョー／ボッチャン
ボッチャン ボッポッポ／ボンポボン ボンポボン／ドードドード ジジュッジュッ

教室の外の雨音に耳を澄まし自分の耳で聴きとった音を言葉にしていくと、4人がそれぞれこんな音で表現しました。初等部2年生の擬音語の勉強の中での一場面です。とても素敵なアプローチです。「大きな雨の音は『ザーザー』。これが擬音語です」。こう教えては決して見えてこない多様な世界が、ここから確かに立ち上がってきます。子どもたちも、自分たちがそれぞれ違った音として雨音を聴きとっていたという発見にさぞ驚いたことでしょう。

『自由学園年報』第20号をお届けします。昨年は初等部では勉強報告会が、女子部、男子部では学業報告会が行われました。今号はそれぞれの報告を担当された先生方による報告記録を中心とする内容です。

自由学園は創立以来、知識を形式的に覚えるだけではなく、ことに当たって自分の頭で深く考え、物事を本質的にとらえる力を育てることを目指してきました。また、生徒たち自身の中にある、もっと知りたい、学びたいという意欲や真摯な姿勢を引き出し、育てることを大切にしてきました。しかしこれは口で言うほど簡単なことではありません。私たち教員は常に、どのような言葉、どのような問い、どのようなテーマが、そしてどのようなアプローチが生徒の主体的な学びの意欲に火を灯し、生徒を深く本質的な問いの世界に向き合わせるができるものかと問い続け、考え続け、学習案を練り続けています。

勉強報告会、学業報告会は、生徒にとっては日ごろの学びから一歩も二歩も深みに乗り出し、一つのことに集中し、探究的に学ぶことのできる機会ですが、教員にとっては、日ごろ問い続け、考え続けてきた学習案をじっくり生徒に投げかける機会でもあります。報告会当日にステージで発表されたそれぞれの報告は、教員と生徒の合作ですが、よい報告は教員の手から離れ、生徒たち自身の言葉と思いのこもった報告となって迫ってきました。確かな手ごたえの感じられた報告が、どのように準備され、どのように指導されたか、ここにその指導記録を読むことができることはうれしいことです。

地理の山本隆太先生に女子部教師会で行った「『ESD』と『アクティブラーニング』の理論と総合実践」と題する研修会報告をお寄せいただきました。20号という記念号にこのような文章を掲載できることをうれしく思っています。

2016年10月

学園長 高橋和也